

9月号の1枚:フォレストキッズスクールでの間伐体験

# 当会基本理念:森林破壊という負の遺産を子孫に残してはならない(2)

### 流域を繋ぐ森林の保全・再生

富士吉田市の富士火山研究所1階ホー ルで「桂川源流地域協議会・桂川東部 地域協議会」が開催され200名を越す 満席の発足記念シンポジウムで記憶に 残る言葉がありました。

「世界文化遺産である富士山麓を源 流とする桂川のほとりに立てば、県境 も市町村境も存在しない、神奈川県民 900万人の飲み水の6割をまかなう"桂 川源流上流域に住む私たちは、かけが えのない桂川源・上流流域であり続け ます"」という地域の人々の力強い宣言 でした。水は、生命の源です。川で源・ 上流域と中・下流都市部が繋がってい ます。

同・記念シンポジウムの司会進行係 が「このシンポにどのくらい神奈川の 方々が参加していらっしゃいますか」 との問いかけにほぼ半数の人々が起立 して下さり、「源流域と都市部下流域」 の繋がりが深くなりつつあるのが実感 しました。7月26日(日)は、横浜貿 易センター9階ホールで「桂川相模川流 域協議会・合同シンポジウム」が主催 され"水源:源流・上流の森と一致団結 して共に森を守ろう、受けて立つ!"に 気概を感じました。

源流・愛知県・長野県境の根羽村で は人口1千人余ですが「親が植え、子が 育て、孫が伐り・植える」という森を 守る言葉が連綿と機継がれています。そ の都市圏の矢作川都市部流域では「森 を守れ、水を使う者は自ら水をつくれ」 と語り継がれています。(酒井秀夫先生 著「NPOの力と可能性 実践経営を 拓く 林業生産技術ゼミナール 伐出・ 路網からサプライチェーンまで」より) このような考え方こそ、森を守る、生命 の水を守る流域を繋ぐ合言葉と思います。

石村 黄仁(本会、代表理事)

今月の定例活動



9月6日(第一日曜日):

小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上 知足の森/若者の森づくり

いずれも弁当持参。参加費:400円

9月20日(第三日曜日):

相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動

主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費:400円









## [定例活動]小原本陣の森、 知足の森

8月2日 (第一日曜日)

今月の定例活動では先月途中だっ た竹の間伐の続きを行いました。今 回は間伐した竹を小金井北高の文化 祭で使いたいということで、めずら しく本数の「ノルマ」が設定されま したうえに、午後からは小原に移動 しフォレストキッズスクールで小学 生が遊ぶ沢のチェックも行うという ハードスケジュールになってしまい ました。先月の作業時には大雨のあ とで、沢がかなり増水しており、し かも途中流れが悪くなっていたため 池のような足場でしたが、今月はす っかり水が引いていて作業はしやす くなっていました。今回も数人でチ ームになり、竹を伐採し、枝を払う チーム、さらに今回は車道まで出さ ねばならないので、車道まで出すチ ーム、そこで整理するチームとに別 れ、順調に数をこなしていくことが できました。ということは沢沿いは

みるみるきれいに明るくなっていっ ています。今回は8月のフォレスト キッズスクールにスタッフとして参 加する中学生の下見、「研修」もか ねていましたが、初めて森に来る生 徒、初めてノコギリを持つ生徒、初 めて急斜面で作業する生徒とおりま したが、これまで参加してくれてい た中学生がきっちり指導してくれ て、大人がアドバイスをする隙すら ありませんでした。本当に頼りにな るまでに成長しています。

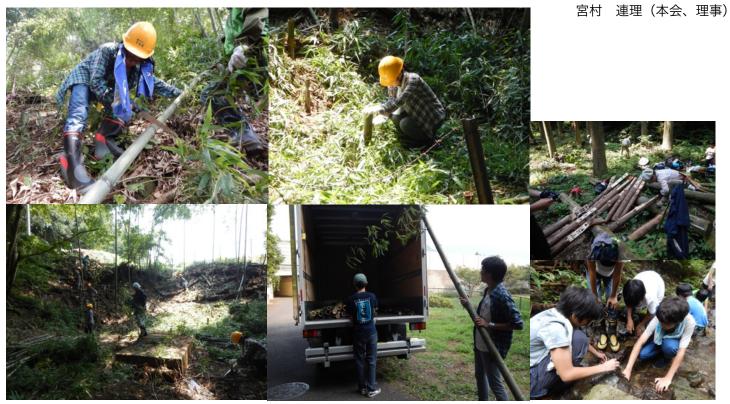
夕方には小金井北高校の生徒さん も5人顔を出してくれ、高校の先生 が用意したトラックに無事積まれ学 校へ搬入されました。お化け屋敷の 骨組みなどに使われるということで すが、9月の文化祭が楽しみです。

小原本陣の森のほうでは、ハイキ ングコースに設置する道標の準備が 進んでいます。写真でご覧いただけ るように孫山の孫の字がしゃれたも のになっていますので、完成、設置 後はハイキングコースを歩いていた だき、実際にご覧いただきたいと思

っています。また、最近のGISのデ ータから、知足の森で今後活動しよ うとしているスギヒノキ林の区画の 上部がハイキングコースの尾根と同 じであることがわかってきました。 来月以降GPSを持って歩き、確定し たいと思います。こちらの作業は長 福寺さんからご提供いただいた資 料、森林組合が所有していた資料な どとGoogle Earthのデータ、国土地 理院の25000図などを組み合わせた ものから区画の角の緯度経度、標高 をほぼ推定しています。いずれにせ よ現地データが最も重要ですので、 次回の調査結果に期待をしていま す。

午後からは小原本陣の森の基地で 集合、合流し、沢のチェックを行い ました。予想通り沢のチェック、と いうよりも彼ら自身の沢遊びになっ ていましたが、遊んでいい範囲の決 定やその表示方法などやるべきこと はしっかりやるところは、彼らの安 心できるところです。一方、我々も 初めて見る要注意生物も発見し、当 日は注意して活動したいと思いま

す。



### [定例活動]相模湖嵐山の森

8月16日 (第三日曜日)

お盆あけということもあってか、 参加はいつもより少ない30名。フォレストノバに至っては川崎さんと中嶋君の2名のみ。何だか少し心細そう。今日はこれからノバの森の上部を見てまわるという。急傾斜地であるが故、まだ施業の手がのびていない区域をこれからどうしていくかを思案、加えて22日に開催予定の森林イベントの計画を練る予定

午前中、森林整備班と地球環境部 との合同での伐倒作業が目をひい た。対象となる木は基地近くの道の 両脇に立つスギとクリの枯木。いず れもなかなかの太さがあり、東西両 横綱といったところ。このまま放っ ておくと人の頭に当たったり、時折 通る車の屋根にぶつかったりする恐 れがあり、危険極まりない。クリは 整備班の石井さんがチェーンソーで ばっさり。スギは代わる代わる手ノ コで応戦するが、大量の虫が材を蝕 んでいるようで中身はブカブカ。倒 れるとき変な方向にはねたりしない よう、作業には慎重さが求められた が、何とか無事に完了。倒したスギ はこれまた整備班の小林さんと初参 加「小林住宅」の土屋さん、新居さ んの二人の女性が玉切る。チェーン ソーの音が夏の森に響く。

さて、このところ姿を見ていなかった井伊さんが皆より遅れてやってきた。しばらく病に罹っていたとのことで、昼休みには自らの闘病体験や現代医学の目覚ましい進歩について熱く語ってくれた。今はすっかり快方に向かっている様子で、いの笑顔が戻っている。医学、医師の在りようを示した福沢諭吉の七言絶句を吟じてからは午後の作業へ。

地球環境部は望星の森に育つトチ ノキのナンバリング。生命の森宣言 東京は径路の草刈り。お花畑班も先 月に引き続き草むしりに励んでいる。雑草の勢いも心なしか衰えてきたようで、これから何を育てていこうか、雑草たちの間で1本のみ無事に生き残ったトウガラシを眺めながら考える。かき菜? 小カブ? 月に一度しか足を運べないことを考えるとやはりブルーベリーが最有力候補か。悩む。

内野 郁夫 (本会、理事)















# [報告 1] ForestNova報告 〜小さな生き物博士

うだる暑い夏はいつの間にか過ぎ 去りましたこの頃。夜空に秋の気配 を感じます。

まだどっと汗が出る7月の半ば、 私たちForestNova☆は活動地の嵐 山にて小学校三年生を対象とした森 の授業を行いました。

授業の内容は、葉っぱを使ったネイチャーゲームと生き物観察。葉っぱを使ったゲームでは、自分の見つけてきた葉っぱでじゃんけんをするという単純なものでしたが、予想をはるかに超える盛り上がりを見せました。長いものや、大きいもの、虫食いがあるものなど、子供たちの思い思いの葉っぱたちが並び、「葉っ

ぱってこんなにあるんだね」と口に する子も。楽しみつつ、自然と葉っ ぱの形を観察することが出来ました。

メインの生き物観察では、観察す るものをアリ、クモ、ミミズ、ダン ゴムシに限定し、班に分かれて森の 中から見つけてくることから始まり ました。草陰や石の裏、土の中な ど、どこに潜んでいるかを自分たち で考え、探し出しました。一部、見 つけることに苦戦したものの、無事 全班捕まえることに成功。見つけた 後は、スケッチしたり、生き物の特 徴や気づいたことをメモしたりしま した。ミミズ班ではその外見から怖 がって触れない子も何人かいました が、他のみんなが触りながら「ぶに ぶにしてる! 「ヌルヌルしてな い!びっくり」と、驚きの声をあげ る姿を見て、好奇心が湧いたのか恐

る恐る触ることができていました。 観察した後は、みんなで気づいたことや驚いたことを発表。たくさんの 発見を見つけることが出来ました。

また、嵐山へ向かう道中、大量の カブトムシが出現。ちょうど相模湖 ではカブトムシが多く発見される時 期と重なっていたそうで、子供たち は大はしゃぎでした。 「匂いでどこ にカブトムシがいるか分かる」とい う子供たちは、もう立派な生き物博 士です。

後日、子供たちから

ForestNova☆へたくさんのお手紙が届きました。ちょうど国語の授業で習ったそうで、子供たちの手紙にはたどたどしくも嬉しい言葉が散りばめられていました。私たちForestNova☆にとっても、思い出に残るかけがえのない一日となりました。

この授業は全三回を一年間通して行う予定で、次の授業は11月。 子供たちがより自然に近づけるように、いろいろなことを発見できるように、全力を尽くしてよりよい授業にできればと思うかぎりです。

世持 由美子 (Forest Nova)



# [報告2] 忍野八海視察

「緑のダム天上山:河口湖町」の 活動に参加した折に相模川源流である「忍野八海」を見に行きました。 韓国・中国などからの環境客でごった返していました・勿論、悪気はないのですがウオン価・元貨の小銭がボンボンと投げ込まれていました。 その小銭が沈んで湧水の出が悪くなっているそうです。帰路、富士急・ 富士山駅まで知人が車で送ってくれたのですが、対向車の車ナンバーが韓国や中国ナンバーが半数近く走っていました。また、御師の家(富士講巡礼者宿)の庭に大挙して入ってチョッとした小物の石仏などを持ち去るそうです。

土地の「里の案内人」が県や市に 保存ルールつくり、整備の申し入れ ているそうですが、「聞き置く」程 度の対応で困っているそうです。そ こで、「日本ユネスコ日本員会」に 協力を申し入れるようにアドバイス をしたら協力してくれることになったそうです。放置すれば日本の伝統 文化が崩壊してしまいます。

石村 黄仁(本会、代表理事)





# [連載] 相模湖・若者の森づくり から

今月号では、7月に小菅村で中 高生を対象に行われた林業研修の 報告、感想をご紹介します。

今回、初めて木を1本自分だけで切りました。森林で活動して1年と少ししか経っていませんが、自分自身の成長や、これからの課題も見つかり、とても有意義な活動になりました。とても疲れましたが、達成感も得られ楽しかったです。(中学2年男子)

自分は今回でこの場所での体験が2回目でしたが、森に入ってみたら、昨年、自分たちでつくったというよりは補修した道が流されたり、崩れたりせず、しっかりのていたことに感動しました。作業の内容としては、間伐をして、大枝打ちをして、玉切りをして、大枝打ちをして、玉切りをして、いっところまでは今まで通りでしたが、今回は木の皮をはぐというのがありました。普段あま

りやらない事なのであまりうまく いかなかったりしましたが、後半 はコツをつかみ、ベリベリと皮を きれいにはぐことができました。 (中学3年男子)

今回の体験ではいつもとは違い、自分1人で受け口~枝払いまでをおこなうという初めての体験をしました。みんなで交替で切ってもった。枝打ちの時に疲れても気を抜いてしまい、ケガをしていまいした。そのため、疲れていてもまいた。でで業しなければならないと、再確認することができました。(中学2年男子)

今回の林業体験では1人で1本の木を切ることができました。1人で切るのは初めてだったのでとても腕が疲れました。しかしそれによって得たものもありました。それは木を切る時のコツなどです。切り口を切るときにななめから切る時はほぼ縦に切るなどです。今回は1人で木を切ることもでき、他の人と協力することもでき、とても充実した1日でした。(中学2年男子)

今回の林業体験では、1人1本 木を倒しました。普段の活動では できないことができて、と際やっ い経験ができました。実際やっ みたところ、私は明らかに体力が 握力が足りないなと、とても思りないなと、1本の木を倒すのに1時間6分かかりました。ただ、倒るかに感じることができました。同じまではまりにとても迷惑をかけてしまって。(高校2年女子)













研修の詳細はArcGISのストーリーマップでも公開しています。ぜひご覧ください。

http://arcg.is/1heb8WF



#### [報告3]

# 「元気森モリ!! フォレストキッズスクール in さがみはら」報告

初めての参加であり、2度の打ち 合わせと現地確認をし少々問題有り かとも思ったが、終ってみれば良か ったと思います。子どもたちとは別 行動であり、全体は判りませんが、 2日目の嵐山での竹に入れたソーメ ンを食べる器と箸作りを体験しても らいました、自分のカップ作りにノ コで竹を切り、割ってもらった竹を サンドペーパーで磨いて箸を作るの もそこそこにソーメンを食べ始めて いました。カップと箸を作らないと ソーメンを食べることが出来ないの で、初めてノコを使う子どもも緊張 と真剣な表情でした。大人が食べ始 める頃には満腹な子どもたちは座り 込んでいましたので、ソーメンと食 器作りは良かったと思っています。 また、作った食器を持ち帰ってくれ た事とお土産の竹トンボ、竹笛、ぶ んぶんコマ、に興味を示したことは 当クラブとしては大変良かったと思 います。更には、竹、竹林をより身 近に感じてくれることを期待するも のであります。

自遊クラブの皆様2日間に渡りご協力有難うございました。最後に一言、見学・・?体験・・? 教育・・? もう少し集団生活のマナーを・・・と感じました。

山根 正治・ユリ子 (日本の竹ファンクラブ愛川・相模 原支部)











#### 参加にあたって:

初参加者は、9時15分までにJR 相模湖駅前集合してください。 服装、持ち物については、汚れ ても良い服装、着替え、滑らな い靴 成るべく皮製手袋、万一 の怪我に備えて保険証、飲料水、 主食、第3日曜は自分の食器 (お椀・お箸)

### 危機管理・救急対応:

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

# NPO法人

# 緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。 そして、沢山の参加で森は、良くなる。

(台風の日は勉強会開催。16年間、 ロカケスを選挙がある。

一日も休まず"継続は力"。)

名称:特定非営利活動法人 緑のダム北相模

事務局: 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人: NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

URL: http://www.midorinodam.jp

Facebook: http://www.facebook.com/658588827578641

E-mail: info●midorinodam.jp ●を@に変更して使用してください

協働団体:セブン-イレブン記念財団、相模原市(市民協働推進課)、

東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京

支援団体:WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、

神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、

マルモ出版